

琉球大学学術リポジトリ

飼料消費量と産卵成績

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松田, 祐一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20938

飼料消費量と産卵成績

養鶏経営で、飼料費の占める部分は、60-70%で、最も大きく。したがって、養鶏業者の、最も大きい関心事は、飼料である。

このたびは、産卵鶏の育成に要する飼料と産卵に要する飼料について、調査結果を述べたいと思う。養鶏家の御参考になれば、幸である。

1 育成に要する飼料

餌付から産卵までに消費する飼料の量、即ち育成飼料は、与えた飼料により、育成の時期により、又鶏の大きさによって差があることは、ここで述べるまでもないことであるが、餌付から産卵までの期間が長いほど、多くの飼料を必要とすることも、勿論のことである。

アメリカのコーネル大学の、白レグについての調査結果は、つぎのようになっている。

餌付後154日間	1羽当	8.4kg
161日間	〃	9.0〃
168日間	〃	9.6〃
175日間	〃	10.2〃



産卵と飼料消費調査中の鶏

この調査結果から考えると、160日で産卵する場合は、1羽について、9kg、175日で産卵したら、10kgの飼料を消費することになる。

琉大における調査では、白レグの秋ひな200羽を育成し、156日で、産卵50%に達したが、消費した飼料は、1羽当、10.6kgであった。これは、コーネル大学の調査よりも、飼料を多く消費しているが、しかし育成した若雌の平均体重、1.730gで、立派な、若雌であったから、飼料を多く食ったものと考る。この飼料の価格は、約1ドル20仙であった。

以上のことから、若雌の育成には、1羽当、9kg-10kgの飼料を要し、飼料費は、1ドル10セント-1ドル20セント要することになる。

2 産卵に要する飼料

産卵鶏が毎日消費する飼料の量は、鶏の大きさと産卵量(産卵率)によって差がある。即ち、体の大きいものほど、また産卵の多いものほど、えさを多く食うが、これも、コーネル大学の調査では、体重2kgの白レグの消費量は、つぎのようになっている。

100羽につき	維持飼料	産卵飼料	計
産卵10%のとき	8kg5	+0.4kg45	=8kg95
20% 〃	8.5	+0.90	=9.40
30% 〃	8.5	+1.35	=9.85
40% 〃	8.5	+1.80	=10.3
50% 〃	8.5	+2.25	=10.7
60% 〃	8.5	+2.70	=11.2
70% 〃	8.5	+3.15	=11.6
80% 〃	8.5	+3.60	=12.1

即ち、100羽の鶏は、維持飼料8kg5の他に、産卵10%毎に、0.45kgの飼料を食うことになる。

70%産卵のときは、100羽で11.6kg、1羽で

は、116gの餌を食う計算になる。

北日本種鶏改良協会の経済検定では、産卵率67-68%で、1羽1日、108-111g食っている。

琉大農場における調査は、次の表のようになっていた。

飼料消費量と産卵成績

月別	3月 22日-31日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計又は 平均
1日1羽当 飼料消費量	g 95.2	102.9	103.2	105.8	100.7	102.2	103.9	106.4	107.2	111.9	113.6	115.2	106.2
産卵率	% 67.5	86.8	87.8	80.4	78.7	75.3	73.2	64.2	72.7	72.2	65.5	62.6	74.3
1個当 卵重	g 48.8	148.3	51.8	53.8	55.2	57.7	58.9	60.6	61.8	63.0	64.1	64.8	57.3
平均体重	g 1730.0	1723.0	1708.0	1710.0	1715.0	1746.0	1802.0	1860.0	1833.0	1811.0	1847.0	1877.0	

註 1. 此の成績は1963年3月22日から1964年2月28日まで、即ちふ化後157日から500日迄、344日間の成績である

2. 体重は、毎月16日に秤った

3月の初産時から毎月減少して、5カ月後の8月になって、ようやく、初産時体重と、ほぼ同じ重さになっている。

以上の調査結果から考えると、産卵率70%のとき、白レグは、1羽1日に、110g前後の飼料を食い、1年間には、約40kg食う計算になる。

3. 産卵に対する飼料要求率について

飼料要求率は、 $\frac{\text{飼料消費量}}{\text{生産卵重量}}$ で示される。即ち、卵を1kg生産するために、何kgのえさを食ったかという割合である。したがって飼料要求率3であったということは、1kgの産卵に、飼料を3kg食ったことを意味する。

では、産卵に対する飼料要求率について調査してみよう。

まず、アメリカ、および、カナダにおける1961-1962年の2カ年に亘る産卵検定の成績から、しらべてみよう。

この産卵検定は、非常に、権威のある、そして大規模のもので、約170群の成績が、発表されている。

ここでは、その全体について述べることは、できない

調査期間344日間の産卵率は、74.3%で、1羽1日当の飼料消費量は、106.2gとなっていて、上述の、アメリカや日本の調査よりも、少なく食っている。とくに、4月から8月までは、産卵率に、比べて、飼料の消費は少なかった。したがって、鶏の体重は、

が、沖縄と関係の深い、ハイライン、ハイスドルフ、キンパー、デカルプの4大農場について、調べてみると、4社の間の差は少く、平均の飼料要求率は、2.9で、もっとも少いののが、2.8となっている。

北日本種鶏改良協会主催の経済検定の成績から、飼料要求率を調べてみると、平均は、2.9となっている。上述の、アメリカの成績との差が少ない。

琉大農場における調査結果は、飼料要求率2.5で前述の成績よりも良好であった。これは、試験羽数が、前2者に比べて少く、即ち琉大の場合は、200羽の調査成績で、また、非常に産卵率が、よかったためと考える。

以上を要約すると、産卵に対する飼料要求率は、産卵成績のよいときに、2.5-3.0であって、産卵率が少いと、4以上になることもある。

大略を述べると、鶏は、産卵までに、9-10kgの飼料、産卵後1カ年に、40kgの飼料合計約50kg内外食って、12-14kg位の卵を産むものと考えられる。
(松田 祐一)